

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名	唐津市立西唐津中学校
-----	------------

達成度（評価）

- A：十分達成できている
- B：おおむね達成できている
- C：やや不十分である
- D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・職員全員が、生徒のことを第一に考えて、学力向上の取組や生徒指導にあたることができた。大きな事件・事故が発生せずに、落ち着いた学校運営を行うことができた。 ・授業力の向上に関しては、校内研究や職員個人のマイプランに基づき、授業改善をすすめているが、まだ納得のいく成果が現れていない。今後もICTの利活用などを含めた指導法の研究が必要である。 ・いじめ防止の取組や平和教育など職員は日々研鑽を重ねているが、講師招聘などを行い、最新の指導方法や知識を習得していく必要がある。
------------------	---

2 学校教育目標	自他の「いのち」を尊び、自立し貢献できる生徒の育成
----------	---------------------------

3 本年度の重点目標	1 生徒も職員も安心安全に生活できる学校づくり 2 教職員の人材育成(未来を担う若手教職員の指導力向上) 3 学校組織のスリム化
------------	--

重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価			
(1) 共通評価項目							主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)		実施結果
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成した教師70%以上。	・校内研修で学力向上対策評価シートや各教科の取組を共有するとともに、学力向上に向けた取組の促進を図る。	B	・授業研究会を4回実施するなど職員の研修の場を多く設定して、資質の向上に努めている。今後は、学力対策シートなどを活用して、数値をもとに取組の検証を行う。	B	・「授業内容を理解している」と回答した生徒は74%だったが、成果指標を達成できたと回答した教師は58%だった。今後も学力向上に向けた取組を推進する。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○基礎学力の向上のための授業づくりの実践 ○補充学習と放課後レベルアップ学習会の実施	○定期テストで基礎的な内容の正答率が80%に達した生徒の割合が70%以上。 ○「意欲をもって補充学習に取組むことができた」生徒の割合が70%以上。	・校内研修を通して、指導方法や評価の在り方について研究実践を行う。 ・電子黒板やタブレット端末などのICTを積極的に活用した授業改善に取組む。	B	・「授業の内容を理解している」と肯定的に答えた生徒が78.4%で概ね達成できている。 ・放課後補充学習については1月に意識調査を実施予定。	B	・「授業の内容を理解している」と肯定的に答えた生徒が74%で、中間評価よりもやや低下した。 ・放課後補充学習では「以前より家庭学習時間が増えた」割合は82%であった。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒80%以上。	・TTによる道徳授業を組むことで、生徒のささやきをひろい、思考を深める。 ・学校行事や地域行事等への積極的な参加を促す。	A	・「道徳の時間は楽しい」と答えた生徒は86.4%、「道徳が生活に役に立つ」と肯定的に答えた生徒の割合は79%であり、授業中だけでなく、実生活にもつながる道徳の授業が展開されている。	A	・「道徳の時間は楽しい」と答えた生徒は86.4%、「道徳が生活に役に立つ」と回答した3年生は94%だった。今後も学年間や家庭と連携した道徳授業を工夫・改善したい。	(主) 道徳教育推進教師 (副) 各学年主任
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上。	・いじめの防止、対応についての研修を年間2回以上行う。 ・覚知時には対策委員会を立ち上げ、保護者と連携しながら解決に努める。	B	・「先生はいじめについて、真剣に対応してくれる」に肯定的に答えた生徒が74.8%、「学校の職員はいじめのない学校、学級づくりに取り組んでいる」と回答した保護者が79.6%である。	B	・「学校はいじめについて組織として対応することができている」と回答した教師は100%だったが、「とてもあてはまる」の割合は23%に留まった。さらなる組織的な取組を推進したい。	(主) 生徒指導主事 (副) 教育相談担当
	●○生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上。 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒75%以上	・キャリア・プランの作成とキャリア・パスポートの記入による、見通し立てと振り返り活動を行う。 ・キャリア・パスポートと学校生活を繋げることで自分の長所に気付かせる。	B	・「先生は自分のことを認めてくれる」と肯定的に答えた生徒の割合が78.6%であり、職員が生徒に寄り添い指導していることが分かる。ただ、夢や進路が決まっている生徒は58.8%であり、今後とも志を高める具体的な進路指導が必要である。	A	・「先生は自分のことを認めてくれる」と肯定的に答えた生徒の割合が94%であり、職員が生徒に寄り添い指導していることが分かる。今後も「ほめるからはじめる」を共通実践したい。	(主) 進路指導主事 (副) 各学年主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に食事は大切である」と考える生徒85%以上。 ○朝食を食べる割合90%以上。	・体験活動等を活用して食への関心を高める。 ・各学級1回は学活の時間に食育指導を行う。	B	・朝食を食べている生徒が83.2%であり、昨年同時期を若干下回った。また、食事を大切だと考えている生徒は95.3%となった。今後も食育について、全校で推進してい。	B	・朝食を食べている生徒が「だいたいあてはまる」を含めると96%であり、中間評価を上回った。家庭科や生徒会活動、給食を主とした食育などが成果を出していると考える。	保健主事 学校栄養職員 養護教諭 家庭担当教諭
	○教育相談の推進	○「学校生活が楽しい」と回答した生徒の割合が70%以上。	・気になる生徒の把握をする会議を定期的に行う。また、SCやSSWの活用などを含め小中合同の教育相談部会を定期的に行う。	A	・「学校が楽しい」と肯定的に答えた生徒が92.8%であり、昨年同時期を約8ポイント上回った。今後も生徒たちのことを認め、ほめながら、学級、学校経営を行っている。	A	・「学校が楽しい」と肯定的に答えた生徒が92.8%で中間評価と同じであった。今後も支持的風土のある学級、学校経営を行っていく。	教育相談担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定。 ・部活動ガイドラインに則った部活動休養日の設定と確実な実施。 ・会議のペーパーレス化など会議や事務の効率化を図る。	B	・「学校は、職員の働き方改革に積極的に取り組んでいる」と回答した職員は77.9%だった。 ・今年度から平日の部活動時間を短縮したが、今後も見直しを検討していきたい。	B	・「学校は、職員の働き方改革に積極的に取り組んでいる」と回答した職員は85%だった。 ・来年度も改善を進めるために、今年度の教育活動や業務の評価と見直しを進めている。	管理職
	○ICT活用による連絡等の効率化	○「はなまる連絡帳」アプリ版の活用によって効率化が進んだと回答する保護者・教職員の割合が80%以上。	・通信類のペーパーレス化やデジタルによる双方向化を推進する。	A	・「はなまる連絡帳アプリ版の活用によって効率化が進んだと思う」と回答した保護者が92.9%、教職員では100%に達した。進行事のデジタル配布や欠席連絡等で効率化が進んだ。	A	・「はなまる連絡帳アプリ版の活用によって効率化が進んだと思う」と回答した保護者が9割以上、教職員では100%に達した。来年度もデジタル化と業務の効率化を推進する。	管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員70%以上。	・特別支援教育に関する研修会の実施	B	・特別支援教育に関する研修会を学期に1回は実施している。	B	・「特別支援教育の専門性が向上している」と回答した教師は68%で成果指標と同程度であった。	特別支援教育コーディネーター
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目							主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)		実施結果
○防災教育の推進	○「安全に関する資質・能力の育成」	○防災について関心があると回答する生徒80%以上。	・地域と連携した実践的防災教育に取り組む。 ・教科横断的な教育実践に取り組む。	B	・「私は防災について関心がある」と回答した生徒は77%であった。 ・12月の小中PTAふれあいまつりでは、防災展示のボランティアに約30名の生徒が参加し、来場者に説明や実演を行った。 ・1月に教科横断的な実践に取り組む予定。	B	・「私は防災について関心がある」と回答した生徒は66%であった。3年生では、86%であり、社会科や理科、道徳科で関連付けた指導が効果的だったと思われる。	教頭 防災教育担当
○生徒会活動の活性化	○生徒の主体的な活動の活性化	○規則正しい生活習慣の醸成を行い、あいさつの意識づけや授業遅刻者を0(ゼロ)にする。	・生徒会を中心にあいさつ運動を行う。 ・学校全体で場に応じた行動(服装・言葉遣い等)に努めさせる。	A	・「生徒はよくあいさつをする」と回答した教職員は88.9%だった。 ・集会等ででは場に応じた行動ができている。	A	・「生徒はよくあいさつをする」と回答した教職員は100%だった。また、「私は時と場所に合ったあいさつができている」と回答した生徒は94%であり、共に高い結果であった。	生徒会担当

5 総合評価・ 次年度への展望	・生徒も職員も安心安全に生活できる学校づくりを目指して、学力向上の取組や生徒指導にあたることができた。「学校が楽しい」と肯定的に答えた生徒は9割以上であり、支持的風土のある落ち着いた学校運営を行うことができた。 ・「授業の内容を理解している」と答えた生徒は7割台である。校内研究や職員個人のマイプランに基づき、授業改善を進めているが、十分な成果が現れていない。今後もICTの利活用等を含めた指導法の研究が必要である。 ・いじめ防止の取組やキャリア教育等について職員は日々研鑽を重ねているが、講師招聘などを行い、最新の指導方法や知識を習得していく必要がある。 ・はなまる連絡帳等のICT利活用により、業務の効率化や情報の共有化が進展した。今後も学校組織のスリム化を進めていきたい。
----------------------------	---